



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

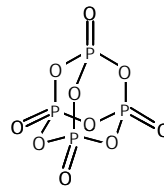
昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当  
TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2022/01/12  
SDS整理番号 16178250

製品等のコード : 1617-8250

製品等の名称 : 酸化りん( ) (無水りん酸)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
乾燥剤、脱水剤、医薬・農薬・界面活性剤・難燃剤原料、消火剤 など



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	
可燃性固体	: 区分に該当しない
自然発火性固体	: 区分に該当しない
自己発熱性化学品	: 区分に該当しない
水反応可燃性化学品	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性(吸入:粉じん)	: 区分2
皮膚刺激性/刺激性	: 区分1A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分1

注意喚起語 : 危険

## 危険有害性情報

吸入すると生命に危険(粉じん)  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷

## 注意書き

## 【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。  
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。  
眼に入った場合、直ちに水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して  
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

湿気、直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	酸化りん( ) (別名) 無水りん酸、五酸化二りん、五酸化りん (英名) Phosphorus( ) oxide、Phosphorus pentoxide、 Diphosphorus pentaoxide (EC名称)、 Phosphorus oxide (P205) (TSCA名称)
成分及び含有量	:	酸化りん( )、97.0%以上
化学式及び構造式	:	P2O5、O5P2、本品の分子の構造は十酸化四りん (P4O10) である とされているので、その構造式を上図(1ページ目)に示す。
分子量	:	141.94
官報公示整理番号	:	(1)-523
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	1314-56-3
EC No.	:	215-236-1
危険有害成分	:	酸化りん( )

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。 呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸 気道を確保した上で人工呼吸(または酸素吸入)を行なう。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、清浄な水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水 で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、 洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の 診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに、口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 直ちに、牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管 への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流 を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速や かに医師の診察を受ける。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:		
吸入	:	咽頭痛、咳、灼熱感、息切れ、息苦しさ。 症状は遅れて現われることがある。
皮膚	:	痛み、発赤、水疱、皮膚熱傷
眼	:	痛み、発赤、重度の熱傷、視力喪失
経口摂取	:	胃痙攣、灼熱感、下痢、咽頭痛、嘔吐

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 本品は不燃性であるが、他の物質の燃焼を助長する。  
粉末消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂

- 使ってはならない消火剤: 水、泡消火剤(発熱を伴って水と激しく反応し、腐食性のりん酸を生じるため。)
- 特有の危険有害性: 火災によって刺激性、有害性のガス、ヒュームを発生するおそれがある。  
加熱分解すると、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。  
消火活動中に煙を吸引しないようにする。
- 特有の消火方法: 火災の場合には散水する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
容器の中に水を入れてはいけない。
- 消火を行う者の保護: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  
: 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
: 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
: 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
: 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
: 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項  
回収、中和  
: 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
: 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。  
: 漏洩物は雨や水と反応するので、水を混入させない。  
: 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。  
: 後処理として、漏洩場所は消石灰、ソーダ灰等の水溶液で中和処理後、大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材  
: 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策  
: 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
: すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
: 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策  
: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
: 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
: 粉じんの堆積を防止する。  
: 防湿対策をする。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項  
: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
: 湿気で反応するため、できるだけ乾燥空気のもとで取り扱う。  
: すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
: 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
: 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避  
保管  
: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 技術的対策  
保管条件  
: 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。  
: 保管場所は、採光と換気装置を設置する。  
: 直射日光や高温多湿を避けて保管する。  
: 湿気により分解するので、乾燥した場所に保管する。  
: 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。  
: 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質  
容器包装材料  
: 水、アルカリ  
: ポリエチレン、ポリプロピレン等

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度  
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):  
日本産衛学会  
ACGIH  
未設定  
TLV-TWA 1mg/m<sup>3</sup> (H3P04)  
TLV-STEL 3mg/m<sup>3</sup> (H3P04)
- 設備対策  
: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
: 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具  
呼吸器の保護具  
手の保護具  
眼の保護具  
: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。  
: 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。  
: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用

- 皮膚及び身体の保護具: 長袖作業衣を着用する。  
衛生対策: 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。  
作業衣を家に持ち帰ってはならない。  
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態  
性状 : 粉末。 吸湿性強い  
色 : 白色  
臭い : 無臭  
pH : 強酸性 約1 (0.5%水溶液)  
融点 : 340  
凝固点 : データなし  
沸点 : 昇華 (360 )  
引火点 : データなし  
可燃性 : 不燃性  
爆発範囲 : データなし  
蒸気圧 : データなし  
相対ガス密度 (空気 = 1) : 4.9  
密度又は相対密度 : 2.4 g/cm<sup>3</sup> (20 )  
比重 : データなし  
溶解度 : 水に溶けやすい (激しく熱を発生しながら分解し、リン酸を生成)。  
オクタノール/水分係数 : データなし  
発火点 : データなし  
分解温度 : データなし  
粘度 : データなし  
動粘度 : データなし  
粒子特性 : データなし
- GHS分類  
可燃性固体 : 本品は不燃性(Merck(14th, 2006))であるため、区分に該当しないとした。  
自然発火性固体 : 本品は不燃性(Merck(14th, 2006))で常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。  
自己発熱性化学品 : 本品は不燃性(Merck(14th, 2006))で空気との接触により自己発熱性がないため、区分に該当しないとした。  
水反応可燃性化学品 : 本品は水に易溶であり、水に対して安定である (水との混触で可燃性ガスの発生がない) と考えられるので、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

- 安定性 (反応性・化学的安定性)  
危険有害反応可能性 : 吸湿性が非常に強い。  
水やアルカリと混触すると激しく反応する。  
水と混触すると、激しく発熱しながら溶けりん酸を生成する。水と反応した時はメタリン酸が生成し、温水との反応した時はオルトリン酸を生成する。  
脱水作用が強い。  
硫酸、硝酸を脱水することができ、各々から三酸化硫黄、五酸化二窒素が得られる。  
水の存在下、大部分の金属を腐食する。  
過塩素酸と激しく反応し、火災および爆発の危険をもたらす。
- 避けるべき条件 : 湿気、高熱、日光  
混触危険物質 : 水、アルカリ  
危険有害な分解生成物 : りん酸

## 11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 データがないため分類できない。  
経皮 データがないため分類できない。  
吸入 (蒸気) データがないため分類できない。  
吸入 (粉じん) ラット LC50 = 1.22mg/L [4時間換算; 0.305mg/L] (IUCLID(2000))  
吸入すると生命に危険 (粉じん) (区分2)
- 皮膚刺激性/刺激性 : ウサギの試験で腐食性を示すの記載 (Patty (5th, 2001)) があり、また、EUリスク分類がR35 (C) であることから、区分1Aとした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1A) 刺激性: 皮膚刺激性/刺激性 が区分1Aに分類されていることから、 区分1とした。
呼吸器感作性:	重篤な眼の損傷(区分1) : データがないので分類できない。
皮膚感作性:	: データがないので分類できない。
生殖細胞変異原性:	: 分類できない。
発がん性:	: 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際 評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性:	: データがないので分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	: データがないので分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	: データがないので分類できない。
誤えん有害性:	: データがないので分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性):	情報がなくため分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性):	情報がなくため分類できない。
残留性・分解性:	データなし
生物蓄積性:	データなし
土壤中の移動性:	データなし
オゾン層への有害性:	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされて いないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた 産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付し て廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知 の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の 処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、 そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 (参考)中和法(少量廃棄の場合) 多量の水に攪拌しながら本品を少量ずつ添加し、りん酸に分解する。 この液に水酸化ナトリウム水溶液等のアルカリ溶液を加えて 中和し、大量の水と共に排水処分する。 排水する際は、関連法規ならびに地方自治体の条例に従い、また、 水質汚濁防止法の排水基準を満たすこと。
汚染容器及び包装	: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って 適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者 に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 137

国際規制

海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No.	: 1807
Proper Shipping Name	: PHOSPHORUS PENTOXIDE
Class	: 8(腐食性物質)
Sub risk	: -
Packing Group	: II
Marine Pollutant	: No(非該当)
TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE	
POLLUTANT CATEGORY	: No(非該当)
Limited Quantity	: 1kg

航空規制情報(ICA0-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No.	: 1807
Proper Shipping Name	: Phosphorus pentoxide
Class	: 8
Sub risk	: -
Packing Group	: II



国内規制

陸上規制情報 (特段の規制なし)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1807  
 品名 : 五酸化りん [無水りん酸]  
 クラス : 8  
 副次危険 : -  
 容器等級 : II  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当

少量危険物許容量 : 1kg

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 1807  
 品名 : 五酸化りん  
 クラス : 8  
 副次危険 : -  
 容器等級 : II  
 少量輸送許容物件許容量 : 5kg

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) : 非該当

消防法 : 非該当

毒劇法 : 非該当

船舶安全法 : 腐食性物質

航空法 : 腐食性物質

水質汚染防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条)

「水素イオン濃度」  
 [排水基準] ・ 海域以外の公共用水域に排出されるもの  
 5.8以上8.6以下  
 ・ 海域に排出されるもの5.0以上9.0以下

「りんの含有量」  
 [排水基準] 16mg/L 以下 (日間平均 8mg/L 以下)

(注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)

第28類 無機化学品

HSコード : 2809.10

・ 輸出統計番号 (2022年版) : 2809.10-000

「五酸化二りん、りん酸及びポリりん酸 (ポリりん酸については、化学的に単一であるかないかを問わない。)

- 五酸化二りん」

・ 輸入統計番号 (2022年1月1日版) : 2809.10-000

「五酸化二りん、りん酸及びポリりん酸 (ポリりん酸については、化学的に単一であるかないかを問わない。)

- 五酸化二りん」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ

労働安全衛生法MSDS対象物質全データ

化学物質の危険・有害便覧

化学大辞典

安衛法化学物質

産業中毒便覧 (増補版)

化学物質安全性データブック

公害と毒・危険物 (総論編、無機編、有機編)

化学工業日報社

化学工業日報社 (2007)

中央労働災害防止協会編

共同出版

化学工業日報社

医歯薬出版

オーム社

三共出版

化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修  
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM  
GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP  
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP  
ウィキペディア百科事典「五酸化二りん」

---

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。